

夏

ふくい

ミクマリ

通信



今号の掲載団体

- ラプリーアースJapan(愛知県)
- 高間自然あそび広場(滋賀県)
- ふくい薪割倶楽部
- NPO法人 ラピユタ創造研究所
- なばたけ農場
- みくに地区まちづくり協議会
- NPO法人三国湊魅力づくりPJ  
緑のループプロジェクト

自然環境を考え、暮らしを考え、未来を考える仲間達と一緒に一冊の通信を作りました。

## ミクマリ通信

福井県面積の約7割を占め、7市4町と岐阜県郡上市の一部を含む九頭竜水系は、霊峰白山を頂とする山々を源に油坂峠(717m)に発し、冠山(1,257m)を源とする足羽川水系、南越前町夜叉ヶ池(1,100m)を源とする日野川水系など多くの支流と合流し、コシヒカリのふるさと福井平野を流れながら、サクラマスや鮎を育み、日本海へと注いでいます。この大流域を舞台とした水と緑の交通は、彼方の大陸までを環内に人・モノを活発に行き来させ、豊かさを運び、独自の文化を育んできました。ミクマリとは水配り、田の神・山の神と深い関わりを持ち、水源や分水嶺に祀られている神の名です。いのちと暮らしの源である水は豊かさの源泉。その分配を考えることは将来にわたって環境を考えることだと考えています。

「九頭竜川流域」という山から海につながる一つの生態系の中で暮らし、多様な環境活動をしている団体や住民の方々とゆるやかなネットワークをつくり、時には協力しあい、時には刺激をうけあいながら、より一層の活動の充実と、その広がり期待したいと、九頭竜川流域ネットワークを築いていきたいと考えております。

情報交換と各活動の報告、そして流域に住む住民の方々に楽しく広報していければと、各団体が原稿を持ち寄り、一冊の通信にまとめました。



## 広がり

九頭竜川流域で環境活動をされているグループ・団体で、我々「ミクマリ通信」に御賛同していただける方参加しませんか？皆様の日ごろの活動を紹介してください。掲載費用はかかりませんが、共有データを各々の団体にて、フリーペーパーの印刷・配布、ホームページに掲載等広報活動をお願いします。個人の投稿のコーナーも新しく出来ました。参加ご希望の方は事務局まで御連絡ください。

## 東日本大震災から4カ月を迎えようとしています

3. 1 2の東日本大震災。そして福島第一原発の事故。

この数か月の間、みな様方も、何か感じ、何か考え、実行してきた事と思います。人間が作りだした、一番恐ろしいものに、日本人は手を出し、扱い方を間違ってしまった。「原子爆弾」と「原子力発電所」の両方の放射能に汚染された、世界で唯一の国となりました。日本そして、放射性物資を撒き散らし被害を広げてしまった地球は、これから何十年、何百年と放射能と向き合っていかなければなりません。

森の一生は800年なのだそうです。一粒の種が落ちて始まります。草が生え、パイオニア樹木の種達が、鳥や動物たちに運ばれてきて、太陽を好む木々達の森となり、生い茂った森の中では、わずかな光を求め、様々な木々が競争をして、三国辺りでは常緑樹などの極相林となって行く。台風や土砂崩れなどによってまた振り出しに戻りながら、長い時間かけて森が出来て行く。植物達が移り変わって行く遷移の過程で、森は次の世代のために、微生物や虫、鳥や動物達と共に土を肥やし、水を蓄えて行く。やがて森から湧き出した水は川を流れ我々の生活を潤し海へ流れて行く。海は様々な生物を育み、森に雨を降らせてくれる。800年という人間の一生から考えると1/10のスピードでゆっくりと時が流れている自然を一瞬で破壊させ、遺伝子までも傷つける「放射線」。被曝量は今も日々蓄積されて行く。人間は急ぎすぎたのではないだろうか？数十年急いだツケは、核廃棄物、放射能汚染という形で数百年続く事になり、傷ついた遺伝子はもう戻らない。森は次の世代のために、土を作り、水を蓄え、暮らしやすい環境を作っていくと言うのに、今だけのわずかながらの便利さの引き換えに、人間が一生かけて、子供達、孫たちに残すものが、ゴミ、自然破壊、環境汚染、水質汚濁、核廃棄物、放射能……。何と恥ずかしい事だろうか。

自然は衣食住を満たしてくれる。それ以上どこまで人々は求めているのだろうか？自然はどこまで許してくれるのだろうか？ゆっくりと自然の時間の流れの中で、森の木々や森に暮らす生き物達と語りあってみたいですね。



## いのちがつながっていくこと



ラブリーアースJapan  
代表 古川 てる子

山に登ったり、森に入ったり、水辺に行ったりするとき、日本の自然の豊かさに、あらためて感動します。



一滴の水が、深い森からふもとまで、水を集めて山里にあり、流れとなって海へ注ぐ……私達はこの恵みを受けて生きていける。

人間も地球のなかに生かされている存在として、自然の一部として、どうかかわって生きていけばいいのか考えていこう、そんな人たちを増やしていこう。

そんな思いで、ラブリーアースをつくりました。具体的に何をしたらいいのか、手さぐりで始めました。今年で3年が過ぎ、私たちの考えかたに共感してくださる人たちも増えてきて、たくさんの友人が出来ました。そうしたつながりの中から、次々と出会いが生まれ、学び合い高めあっていくことが出来つつあります。

今はまず、若い人、子どもたちを自然の中へいざなうこと、触れること、自ら動くこと、体験すること、より正しい知識を楽しく学ぶこと、そんなことをしようとしています。

フィールドは、近くの森でも山でも川でも、田んぼでも畑でもいい。小さな空き地に草が生え、木が育ち、昆虫が来て、鳥が訪れる、自然が豊かになっていく。不思議があり、驚きがある。

身近な自然を大切に、そこにある自然から学ぼうと思っています。名古屋市内に残る小さな緑地で、(その中心部に道路建設工事が進み、今は中断しているのですが)月1回自然観察を行っています。そこでは、5月下旬から6月初旬、陸生のヒメボタルがとびます。約1週間の命の光を出して、次へ命をつないでいって、来年もとんでくれるでしょう。

そんなことを子どもたちに伝えていくことも、私たちのしごとだと思います。

水源の森、長野県王滝で、大自然の一端と人のかかわりを体験することを年数回、木を切ったり(人工林のカラマツ間伐)、山菜を採ったり食事をしたり、と楽しむことから、始めています。



王滝村ラブリーアースの森にて

大震災で、深く悲しい被害を受けてしまいましたが、自然も人間も、やがては元に戻っていける力を持っていると思っています。

いろいろな人がいろいろな場所で、さまざまな形でかかわっていくことが大切だと思います。ミクマリの人たちも心強い仲間として、これからもおつきあいください。

地球上の全てのいのちが未来へつながっていくことをねがって、いとおいしい地球(ラブリーアース)に生きる仲間どうしとして。



200歳のブナ:冠山峠(九頭竜川と揖斐川の分水嶺)

2011年6月

ラブリーアースJapan事務局

〒457-0863 名古屋市南区豊4-22-10

TEL/FAX 052-821-6463

E-mail : [viva\\_forest@yahoo.co.jp](mailto:viva_forest@yahoo.co.jp)

HP : ラブリーアース 検索

<http://lovelyearth.webdeki-hp.com/>

## 滋賀県甲賀の山里から

### ～高間自然あそび広場の紹介～

いつも、緑リレーの企画に参加させてもらってるので、今回は私達が滋賀の山里でやっている活動を紹介させていただきます。私達の住む甲賀は、忍者のふる里です、さそや自然豊かな険しい山がいっぱいと思えるかもしれませんが以外にも高い山はあまりなく、低い丘陵地が掌状にいくつも横たわる変わった地形の



さあ、冒険コースに出発だ！

ところですよ(この地形が忍者を育てたとも)。自然もたくさんあるけど、人もたくさん住んでいるちよい田舎といったところでしょうか。このちよい田舎というのが曲者で、自由に思いっきり自然の中で遊ぶというのができそうで、なかなか出来ません。道は結構車がとおり、川はコンクリート張り、森は家に近すぎ勝手に入りにくいのです。

そこで、子育て中のママたちで集まって、自然の中で遊ぶ場所を作ろう！と始まったのが「高間自然あそび広場」です。キャンプ場をかねた公園に隣接した山林を借りる事が出来たので、山と公園を使ってあそんでいます。毎回やっていることは、火をおこす事、火が使えると遊びの幅が広がります。また、山林はかなりの急傾斜地ですが、「冒険コース」と銘打ち散策路がつくってあります。参加者は自由にコースをまわって遊びます。公園にはハンモックやロープが渡してありそれらを使って遊んだりもします。毎回何か企画ごとにもひとつ実施しています。これまでにやったことは、リース作り、薪でご飯を炊く、ティピー作りなどです。ルールはいたって簡単



燃料や遊びの材料は山から調達



自分達で作った秘密基地から出てきた

そこで、子育て中のママたちで集まって、自然の中で遊ぶ場所を作ろう！と始まったのが「高間自然あそび広場」です。キャンプ場をかねた公園に隣接した山林を借りる事が出来たので、山と公園を使ってあそんでいます。毎回やっていることは、火をおこす事、火が使えると遊びの幅が広がります。また、山林はかなりの急傾斜地ですが、「冒険コース」と銘打ち散策路がつくってあります。参加者は自由にコースをまわって遊びます。公園にはハンモックやロープが渡してありそれらを使って遊んだりもします。毎回何か企画ごとにもひとつ実施しています。これまでにやったことは、リース作り、薪でご飯を炊く、ティピー作りなどです。ルールはいたって簡単

「ケガと弁当は自分もち」です。すべて自由参加で子ども達は勝手に遊び、大人も遊びながら見守るといった感じでしょうか。自然が好きな人が集まって、ゆるやかに時を過ごす楽しい時間です。活動日とは別に、安全対策として森林の整備などもしています。



滋賀県甲賀市甲賀町 山本綾美



## 「ふくい薪割倶楽部」の紹介

ふくい薪割倶楽部は、福井県の薪ストーブユーザーの集まりです。会員数約40名で、大野・勝山をはじめ敦賀など広く県内に会員を有し、薪集め情報を共有し活動を行っています。

倶楽部の活動は、福井豪雨後の足羽川堤防整備に関連し桜の木の処分の協力、公共工事等で切り倒された樹木の処分に協力するというようなものが主だったものです。昨今は、処分に費用が掛かる時代ですから、お互い見事に共生しています。また、八ツ杉千年の森における新緑祭で薪割り体験会を行っています。



薪ストーブを利用している人なら誰でも実感することですが、薪ストーブには家を暖める機能ばかりではなく、遠赤効果で体の心から温まる、空気が汚れないばかりか空気清浄作用（外気導入をしていない場合）がある、火を見ているだけで楽しい、子供たちの火の取扱いの学習機材となるなどのメリットがある一方で、薪や薪をストックするスペースの確保が大変、床が汚れる、室内が過度に乾燥する（洗濯物が乾くと  
言うメリットになります）、煙突からの煙や臭いで近所トラブルが起こる場合がある

などのデメリットもあります。

ここで薪ストーブの環境面におけるメリットをご紹介します。木を燃やすと二酸化炭素が排出されますが、木が成長する過程で同じ量の二酸化炭素が吸収されます。つまり、伐った分の木がまた生えれば、大気中の二酸化炭素は増えないこととなります。この性質を「カーボンニュートラル」と言います。また、木が枯れてそのままにしておいても、木が腐る過程で同じ量の二酸化炭素が放出されます（腐敗するときには、炭酸ガスだけでなくメタンガスも発生します）ので、その木を燃やしても燃やさなくとも二酸化炭素の排出量は同じです。その木を燃料とする薪ストーブは、廃棄されるもの（木）を利用するので、きわめてエコで、有効なエネルギー利用をしていると言えます。



また、薪ストーブは、熱効率が80%に達すると言われます。電気を使った暖房器具と比較してみるとその倍以上だそうです。さらには、薪ストーブ1台でハイブリット車5台分の二酸化炭素削減効果がある（北大試算：7月30日河北新報）との研究報告もあり、環境にやさしいと暖房器具だと言えます。



最後になりますが、薪ストーブの燃料の薪は、バイオマス・エネルギーです。バイオマス・エネルギーは、生物起源の再生可能エネルギーです。循環は究極の省エネルギーと言えますが、それには使った分だけ再生しなければなりません。カーボンニュートラルのところでは触れましたが、薪ストーブを使うには、木を伐るだけではなく、伐った分だけせつせと木を植えないと、省エネルギー

効果が、発揮できません。里山づくり活動（みどりのリレー活動など）にも参加し、伐るだけではなく、植える、育てる活動への協力も必要ではないかと考えています。



今後の活動予定

10月29日（土）子供向けの薪割り体験協力



ホームページ <http://www7a.biglobe.ne.jp/~fki-woodchoppers/>

(ふくい薪割倶楽部のブログ)

事務局 藤野 博文（携帯 080-3742-8808）

## 生きものと人の集まる田んぼ

なばたけ農場 稲澤宗一郎

平成10年に就農してから、有機稲作を中心に有機農業をおこなっています。これまでは雑草との戦いで、炎天下の下、腰をかがめて手取り除草に追われる年が続いてきましたが、今年は手取り除草の必要がないほど、雑草が生えていません。これは本来水田が持っている『生物の多様性』を生かした米作りが確立されてきていると言えます。

米ヌカ・クズ大豆といった身近に入手しやすい資材を使い、発酵肥料を田んぼに投入するとともに、田植えをはさんで前後一カ月(約60日)、田に深く水を張った状態を保つことによって、生物の多様性に富んだ環境を作っていきます。ユスリカやイトミミズといった小動物や光合成細菌、乳酸菌などの微生物が爆発的に増加し、アミドロという緑藻類が見事に田面を覆い、水が茶色く濁ることで雑草の生育を抑えることが確認されています。また年々土壌も豊かになり、投入する肥料も少なく抑えなければならない程の手ごたえを感じています。

なばたけ農場では、こうした田んぼを開放して田植え、生きもの探し、稲刈り、収穫祭などのイベントを開催しています。これらのイベントを通して、有機水田の持つ生物多様性をアピールするとともに、農業の楽しさ、農的暮らしの豊かさを伝えていきたいと考えています。

田植えから一カ月ほど経った、田んぼでは、オタマジャクシ、カエル、ヤゴの羽化やそれをねらって飛び交うツバメやサギの姿など、生きものが一番にぎわう時期となりました。そのなばたけ田んぼで、来る7月9日(土)に田んぼに繰り出して、『田んぼの生きものがし!』を開催します。当日は生きもの博士もやってきて、つかまえた生きものの解説等もしていただきます。その後には、石窯で夏野菜ピZZAを作る予定です。なばたけの田んぼでお待ちしています。網を片手に田んぼにあつまれ~!!!

### ★なばたけ農場のイベント★

- ・ 田植え…6月上旬の週末
- ・ 田んぼの生きもの探し…7月10日前後の週末
  - ・ 稲刈り…10月上旬の週末
  - ・ 収穫祭…11月中旬の週末
- ・ 味噌仕込み会…2~3月の平日と土日の4回



なばたけの田んぼで  
お待ちしております  
!!

〒919-0515 福井県  
坂井市坂井町若宮43-12  
Tel/Fax:0776-68-1951  
kome@nabatake-farm.jp  
<http://nabatake-farm.jp>

歩こう  乗ろう  広めよう  300円  
お徳!!

わがまち **エコ来店** みくに地区まちづくり協議会

(坂井市三国町北本町2丁目1番33号 Tel0776-82-6400.Fax0776-82-4786 mikuni-k@mx3.fctv.ne.jp)

買い物に徒歩や自転車で行ってポイントをGET! CO<sub>2</sub>削減!



福井県はマイカー保有率が日本一!

エコ来店によりマイカー使用の減ることでCO<sub>2</sub>削減に向けた大きな効果が得られ、今後迎える高齢化社会の進展に対応するためにも、車に頼らずに生活できる優しい町づくりを目指します。

波及効果>>商店街の活性化

徒歩や自転車での来店、またはマイバッグ持参でポイントが加算され、地元商店街での買い物が増え、地域の活性化に貢献します。

波及効果>>コミュニティバス利用促進

坂井市が運行を始めたコミュニティバスの利用促進ができ、さらにCO<sub>2</sub>削減します。

波及効果>>歩道整備の実現

エコ来店をとおして歩道を見直し、歩きやすい歩道の整備につながりました。

波及効果>>路線バスへの波及

コミュニティバス乗車券を路線バスでも使用可能になり、公共交通の利用促進につながります。



★「カニカード」加盟店で、エコポイントを加算!

徒歩や自転車での来店者、またはマイバッグ持参者に三国商業振興協同組合の買い物ポイントカード「かにカード」にポイントを加算!



★満点「かにカード」とコミュニティバス乗車券との交換

満点ポイントカードは500円の買物券やコミュニティバス乗車券8枚と交換できます!(通常より300円もお得です)

MY うちわコンテスト vol.3

あおって、あおって涼しい夏を!!

応募締切 8月20日(土)

今年3回目の開催となるMYうちわコンテスト!今年は!

ちょっと手間をかけてMYうちわを作ってみませんか?一緒に作るイベントも企画しております。



ご応募は  
三国公民館  
82-76400まで

一緒に作ろっさ! 8月20日(土)

1の部夕涼み会(三国神社前)

3の部夕涼み会(三国商工会館前)

作品展示:8月22日~三国公民館

参加賞、優秀賞あります★

## NPO法人三国湊魅力づくりPJ 緑のリレープロジェクトです！

緑のリレープロジェクトでは月に一回活動日を決めて、三国町の里山(ラーバンの森周辺)整備をしています。不定期ながら平日のみどりレー活動も行っています。会員や固定メンバーでの活動ではなく、参加自由のボランティア活動なので、気楽にお問合わせ・御参加してください。今年度は森の整備と共に、原木きのこの栽培、森のクラフト展、キノコの観察会などのイベント開催なども行う予定です。環境の保全と利用をバランスよく行って行く事により、森の活性化・地域の活性化に繋がり、少しでも多くの人々が森と接し、自然を学び、自然との暮らしを楽しめればと思います。

7月10日(日) 下草刈り、危険木の伐木、虫の観察会

9月25日(予定)「森のクラフト展 & 収穫祭」

10月2日(日)きのこの観察会

※今後の予定は変更になる事があります。

### 里山のコラム

ある天気の良い昼下がり、無農薬・有機栽培で手間暇かけて田んぼ作りをしている「なばたけ農場」さんの、いなちゃん、森の隣の小さな休耕田で何かできないか話をしてみた。森の木が張り出し、光があまり差し込まなく、湿地でトラクターなどの機械ははまってしまふ。しかし、森に囲まれ雰囲気も最高、虫や鳥たちの鳴き声が響き、森からの湧水は一年を通して枯れる事がない。私が「2・3年以内にここの田んぼを始めたら面白いなあ」といったら、「もう今年から始めましょう！」と頼もしい一言。さっそく、今年の秋から、落ち葉集めをして腐葉土作りと周りの張り出した木を少し切ります。もち米を植えて秋のクラフト展では、みんなで餅つきをしたいです。これでやっと、森の手入れと農業と日々の暮らしの食が繋がります。子供達と一緒に春の田植えや稲刈りが楽しみです。



### みどりレーのつばやき

最近近くの杉林を間伐して、木を運び出し、加工して、テーブルやプランコ、ログハウスの犬小屋などを作っている。運び出した森には、枝や葉が残るだけで、薪や材料としてほとんど運びだしている。加工する時にでる、おが屑は鶏小屋に敷き詰める。枝も集めれば、薪になる。現在の活動地でも落ち葉を集めて、牛フンや鶏フンと混ぜて、たい肥作りもしている。枯れた木や間伐した木は、薪として使う。草刈りした草は、牧場の牛や鶏のごちそうだ。土砂を支え、水を蓄え、生き物達を育ててきた森でもある。人と森との関わりの中で森の中に無駄な物がない。かつて、里の近い森はこういうものだったのだろう。しかし頂くだけでは、森には何もなくなってしまうので、萌芽更新させたり、苗作り・植樹もしてゆかなければいけないし50年、100年後も湧水を湛えるために森を守って行かなければいけない。私も薪ストーブを使うので、薪や椎茸のほだ木はほしいが、10年20年後、そして子供達の時代にも森の恵みや生き物達を残したいので、その森が再生できる様に手助けしたいと思っている。

しかし現在では、木が倒れそうで危ないから伐りたいとか、道を作るのに邪魔、護岸工事も進んだし雨で流されるから河原の木はいらない、落ち葉の片づけが大変だから、桜の花が散ると汚れるから、虫がいるから……様々な人間の都合で、何十年、何百年と、村や人々を見守り続けてきた木が切られてゆく。風除けになったり、木陰を作ったり、雨宿りしたり、子供たちが虫とりをしたり、人との待ち合わせの場、近所の人との立ち話の場でもあった。しかし、最近は木が一本も生えていないような集落もあり少しさみしく感じる。もちろん、なんでもかんでも、木を切るなどとは言わない。できれば、自分とその家族が暮らす上で、排出するCO2を吸収して酸素を供給する位の地域の木や森は守ろうと考えられたら面白いと思う。ちなみにあるデータでは、1人の人間が一年間に生理的に必要とする酸素量からするとおよそ16本、電気・ガスや交通手段など現代では大量の二酸化炭素を排出するため、これらをふまえると実際の生活では日本人一人当たり、300本(アメリカ人は500本)の木が必要らしい。一家族当たり1haほどが必要になる。そして重要なのは森林の炭素貯蔵量である。世界中の森林が貯蔵している炭素合計は1兆4700億ト、と言われ、それにたいして大気中の二酸化炭素にある炭素量は7200億ト、なのだそうです。つまり、大気中にある二酸化炭素の総量の2倍も森林が固定化している事になり、森林がいかに大切なものかという事がわかる。

〒913-0046 福井県坂井市三国町北本町 4-5-5 TEL:0776-81-3921(三國湊座内)

ホームページ:<http://www.mikuni-minato.jp/midorelay>

メール:[midorelay@mikuni-minato.jp](mailto:midorelay@mikuni-minato.jp)

事務局 竹内 英樹(携帯090-8324-4918)



三國湊  
緑のリレープロジェクト

ここからは、読者の投稿のページです。普段思っている事、考えている事など皆様も投稿してください！

## 吉野瀬川ダムは要るか

ラピュタ創造研究所

井上和治

### ■本当にダムは要るのか

民主党の「コンクリートから人へ」の公約方針に沿って、越前市の吉野瀬川ダムについても、ダムに頼らない治水策を立案し、ダム事業と比較検証するよう、国交省が福井県に求めていたが、福井県は、5月末、素案段階と同じ「ダム事業を現行計画通り継続する」という意見をまとめ、国へ報告することに決めた。

本当にダムは要るのか、元京都大学防災研究所所長の今本博健さんと現場を歩きながら考えてみた。

### ■吉野瀬川ダム

九頭竜川の支流日野川のそのまた支流吉野瀬川は、越前市の西方に水源を持ち、くねりながら武生盆地を流れ、末端は鯖江市との境界付近で日野川に合流している。流域面積 59 k m<sup>2</sup>、流路延長 18.3 k mの一級河川である。昭和 50 年代からダム建設が計画され、付替え道路や水没地区の住宅移転といった周辺工事が最近までダラダラと 30 年間もかけてなされてきたが、ダム本体の建設はどうした訳か手付かずのままできた。その間、台風時などに下流部では付近住民の避難が何度か繰り返された。

### ■定量治水と非定量治水

思ってもいなかった国交省からの治水再検討要請に対し、ダムを建設したい福井県は、地元越前市などと、まるで原子力安全委員会のようなハイハイシャンシャンのダム事業検証検討会を何度か開いて、ダム事業継続を決めた。それに対し、元京大防災研究所所長の今本博健さんが「ちょっと待った！」とばかり、ダム建設反対の次のようなパブリックコメントを福井県に提出した。

吉野瀬川ダムは浸水被害を解消する効果がないために当面実施せず、洪水を氾濫させない対策と氾濫した場合の対策ならびに内水排除対策を優先実施すべきである。

1/30 (30年に一度降るような大雨) や 1/70 といった計画洪水に対しては、ダムがあってもなくても越水氾濫する。そんなダムよりも、堤防補強を実施するのが適切である、というのである。

今までの治水は、一定限度の規模の洪水を対象として河川に封じ込める (氾濫させない) もので「定量治水」方式といわれる。この方式は、対象を超える洪水が発生すれば破綻するという基本的な欠陥がある。「想定内」なら対応できるが「想定外」の場合はもうどうなるかわかりません、という考えである。これは最近どこかでよく聞く言い回しではないか。

これからの治水は、あらゆる規模の洪水を流域全体で受け止めるもので、対象洪水を設定しないので「非定量治水」といわれる。定量治水では対象洪水への対応性から対策が選択されるのに対し、非定量治水では実現性や環境に重大な影響を及ぼさないことが重視される。なお、ダムは定量治水では有力な選択肢であるが、定量治水の欠陥が顕著に現れるため、非定量治水では最後の検討対象とされる。

両方式の治水安全度を比較すると、定量治水では対策の達成に時間は要するものの、達成された時点で飛躍的に向上するのに対し、非定量治水では段階ごとの向上は小さいものの、対策を積み重ねることで向上し続ける。また、定量治水では対象を超える洪水に対して急激に低下するのに対して非定量治水では徐々に低下するといった違いがある。

これまでの治水では定量治水が唯一の方式であったが、残されたダムの適地が少ないことなどからこれからも継続するのは困難であり、非定量治水へと転換されるのは歴史的な必然である。

※ 定量治水と非定量治水については、今本博健さんの文を多く引用させていただいた。

## ■吉野瀬川現場探訪



### 吉野瀬川放水路（日野川との合流部分）工事現場

ここにある大量化学廃棄物の流下が心配される。



### かんがい用の堰

洪水時は障害になる。ダムができて堰があれば洪水は起こる。きめ細かい河川管理の問題である。



### 脱ダムの田中康夫元長野県知事の技術ブレーン今本博健さん（右側）

※ 定量治水と非定量治水については、今本博健さんの文を多く引用させていただいた。

ラピユタ創造研究所  
井上和治

## 「テレビのお話」

あるテレビ番組で「脱原発か？原発推進か？」という内容で政治家や専門家が議論を交わしていた。話が進む中、ある政治家が胸を張って言ったのが「私の考えは、脱原発依存です！！」この人は、結局どっちなんだ？と思っているうちに番組は終わった・・・・・・。「さすが政治家！」こんな 100 点満点の回答は私には導けなかった。別の番組では、「放射能に汚染された、土地では、野菜が作れないから、今注目の「レタス工場」・「ブルーベリー工場」を被災地に作りましょう～！なんと、今までの収穫量の 8 倍です！3・4 カ月かかっていた物が 50 日、一年かかっていた物が 180 日で出荷できます。」と・・・・。農薬を使わず有機栽培で土作りから始め、毎日、田畑に出て草取りをしたり、剪定をしたり手間暇かけて農業をしてきた人にとって、全てがコンピューター制御され、無菌室で科学者が作るこの「野菜工場」はどの様に目に映るのだろうか？しかも現在問合わせ殺到中らしく需要の高さがうかがえる。この国はどこに向かって行くのだろうか？

私自身は、胸を張って「脱原発！反原発！」と言える様な暮らしをしていない・・・・。しかし、森の手入れを続け、間伐材で物を作ったり、薪ストーブを焚き、森の恵みを頂き、自分たちの食べるお米や野菜を自然にできるだけ負荷を与えないように作り続けていければ、その先に原発のいらぬ暮らしが見えてくると思っている。今、私達は、どの様に暮らしていき、子供たち孫たちに何を残してゆくかが問われている気がする。

## 「間伐のお話」

私の実家にはヒノキの人工林が 0.6ha ほどある。友人たちと一緒に「自力間伐」に挑戦した。森林組合にお願いすれば、数日程度の仕事だと思う。しかも助成金制度があるので、ほぼ無料でやってもらえるらしい。この森は、おじいさんと父親が、素人ながら植林し、その後 40 年近く放置されたいわゆる「手遅れ林」だ。私が小学校の頃、草刈りに行った覚えはある。その日から、何故かずっと気になっている森だった。自宅から車で一時間半位の所にあるのだが、その後も数回覗きに行っていた。木を切った事もなかったが、何となくいつか「間伐とか言うもの」をやらなくては！！と、ずっと心の片隅にあった。そんな時、友人が、森に関わる事を初めて、「自力間伐やろう」という事になった。H21 年の 3 月から始め、冬の休みの日に月 1・2 回程度通い、今年の 2 月に完了した。間伐を始めた年の夏に、台風の直撃に会い、100 本ほどの木が根こそぎドミノ倒しの様に倒れた。その重なり合って傾いている木の処理だけで、1 シーズンは終わってしまった。間伐した直径 25cm、長さ 3.5m ほどの丸太 5 本とチェーンソーで板にしたもの 10 枚ほどを、谷からロープと滑車で引き上げ、手作りの台車に乗せ人力で山道を 200m ほど運搬して車に積み込んで、昨年九月に新築した我が家の柱や家具、看板として利用した。こんな大変な馬鹿げた作業に参加してくれた友人、その奥さん、そして子供達に本当に感謝している。35 歳を超え、お互い家庭を持ち、それぞれの生き方をしているながら、力を合わせ、無駄と思える様な事に、損得無しに一生懸命になって汗を流せる仲間達を誇りに思う。時には、作業道具一式の他に、大鍋と野菜やお肉、水などを担いで、森の中で新年会をした日もあった。毎回昼ご飯と食後のコーヒーには力を入れた。帰りには毎回温泉に行った。この間伐で、生きている木を倒すということの意味、一つの命を断つ神聖さなど初めて感じた。魚をさばいたり、鶏をさばいたりする時も同じように感じる。慣れてしまうとつい失ってしまいそうな、この不思議な気持ちの高ぶり、独特の雰囲気は今でも感じるし、これからも感じる事が出来る自分でいたいと思う。今年 5 月に、我々の「自力間伐」に国からの 8 万円ほどの助成金がおりました。もちろん、交通費、食費、温泉代、道具代などを考えたら大赤字だ。この間伐で自分の森を自分で手入れしてお金をもらう助成金のシステムにも驚いたが、仲間達と過ごしたこの貴重な経験は一生忘れない。 坂井市 竹内



NPO法人三国湊魅力づくりPJ  
緑のループプロジェクト

三国湊子どもエコスクール実行委員会

みに地区まちづくり協議会

浪師と友だち

なばたけ農場

サクラマス・レストレーション

小塚ECOプロジェクト

環境パートナー池田

福井きのこ会

NPO 法人ラピュタ創造研究所

郷川つなぎ響遊プロジェクト

ふくい新創倶楽部(福井県全域)

ふくいミクマリ通信事務局  
NPO 法人三国湊魅力づくりPJ  
緑のループプロジェクト  
〒913-0046  
福井県坂井市三国町北本町 4-5-5  
Tel:0776-81-3921(三国湊座内)  
メール:[midorelay@mikuni-minato.jp](mailto:midorelay@mikuni-minato.jp)

高間自然あそび広場(滋賀県)

ラプリー・アースJapan(愛知県)

